

「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群 公開・活用基本構想

2016年3月

「宗像・沖ノ島と関連遺産群」世界遺産推進会議

目次

第1章 目的

| | |
|-------------------|----|
| 1-1 目的 | 4 |
| 1-2 遺産群の概要 | 6 |
| 1-3 伝えるべき価値 | 14 |

第2章 基本的な考え方

| | |
|----------------------|----|
| 2-1 公開・活用の基本理念 | 16 |
| 2-2 基本方針 | 17 |
| 2-3 来訪の基本的な考え方 | 19 |
| 2-4 基本構想の体系 | 21 |

第3章 施策

| | |
|--------------------|----|
| 3-1 遺産群の保護 | 24 |
| 3-2 円滑な来訪 | 26 |
| 3-3 価値の探求・発信 | 33 |
| 3-4 地域との協調 | 33 |

第4章 エリア別展開

| | |
|-----------------------|----|
| 4-1 沖ノ島エリア | 38 |
| 4-2 大島エリア | 40 |
| 4-3 辺津宮エリア | 43 |
| 4-4 新原・奴山古墳群エリア | 46 |

第 1 章

目的

- 1-1 目的
- 1-2 遺産群の概要
- 1-3 伝えるべき価値

1-1 目的

公開・活用の意義

「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群（以下、遺産群もしくは本遺産群と言う）は、宗像大社沖津宮（沖ノ島）、宗像大社沖津宮遙拝所、宗像大社中津宮、宗像大社辺津宮および新原・奴山古墳群から構成され、2016年1月にユネスコへ世界遺産一覧表への記載推薦書が提出された。2017年の世界遺産委員会にて、登録の可否が決定される見込みである。

世界遺産はかけがえのない人類共通の宝物であり、将来世代に守り伝えていかなければならない。そのためには遺産群を確実に保全するだけでなく、広く公開・活用することで世界遺産としての価値をより多くの人々と共有し、遺産群の重要性とともに守られてきた伝統を伝え、遺産群の保護の意識を向上することが重要である。

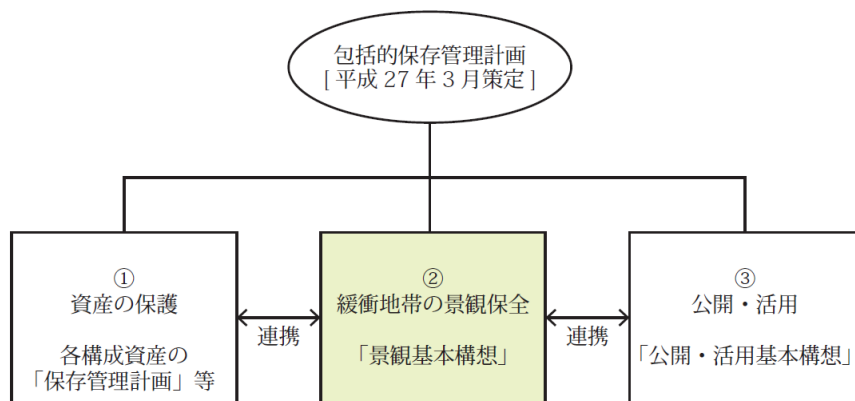
本遺産群の特徴

本遺産群は、沖ノ島のほか大島や九州本土に構成資産が分散しており、その中心的な存在である沖ノ島は、島を信仰の対象としてほぼ手つかずの状態を守ってきた禁忌などの伝統的慣習が今も生きており、現地の公開は適切ではない。そのため、遺産群全体のイメージを統合し、構成資産それぞれにおいて世界遺産としての顕著な普遍的価値を正しく発信していくためには、通常の遺産群とは異なった独自の公開・活用のあり方が求められる。

本基本構想の目的と位置づけ

本基本構想では、推薦書および包括的保存管理計画に基づいて遺産群の公開・活用に関する現状と課題の再整理を行い、価値の保全と両立した理想的な公開・活用のための基本的な理念や方針を共有し、あわせてその実現のために必要な施策の方向性を示す。遺産群の保護についての考え方は各構成資産の保存管理計画¹に、緩衝地帯の景観保全についての考え方は『「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群景観基本構想』に示されており、それらと連携・整合を図りながら遺産群の公開・活用を行っていくものである。

¹ 宗像大社沖津宮（沖ノ島）、宗像大社沖津宮遙拝所、宗像大社中津宮および宗像大社辺津宮は『国指定史跡「宗像神社境内」国指定天然記念物「沖の島原始林」保存管理計画書』（宗像市、2014年）、新原・奴山古墳群は『国指定史跡「津屋崎古墳群」保存管理計画』（福津市、2014年）。



策定の経緯

| | |
|------------|---------------------------------|
| 平成27年12月2日 | 第14回「宗像・沖ノ島と関連遺産群」 専門家会議にて協議 |
| 平成28年2月11日 | 第15回「宗像・沖ノ島と関連遺産群」 専門家会議にて協議 |

表 「宗像・沖ノ島と関連遺産群」 専門家会議委員等一覧

| 分類 | 氏名 | 専門 | 所属等 |
|--------|--|---------------|----------------------|
| 委員長 | 西谷 正 | 考古学 | 海の道むなかた館長 |
| 副委員長 | 佐藤 信 | 古代史 | 東京大学大学院教授 |
| 委員 | 稲葉 信子 | 建築史、文化遺産保存 | 筑波大学大学院教授 |
| | 岡田 保良 | 建築史、都市史（西アジア） | 国士舘大学イラク古代文化研究所教授 |
| | 金田 章裕 | 歴史地理学 | 京都大学名誉教授・元人間文化研究機構機長 |
| | 三輪 嘉六 | 考古学、文化財学 | 元九州国立博物館長 |
| オブザーバー | 葦津 幹之 | 神職 | 宗像大社権宮司 |
| | 鈴木 地平 | 文化財保護、文化的景観 | 文化庁記念物課世界文化遺産室文化財調査官 |
| | 下田 一太 | 文化財保護、建築史 | 文化庁記念物課世界文化遺産室文化財調査官 |
| 事務局 | 福岡県企画・地域振興部総合政策課世界遺産登録推進室 宗像市経営企画部経営企画課世界遺産登録推進室 福津市総合政策部世界遺産登録推進室 | | |

1-2 遺産群の概要

「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群は、日本の西部沿岸に位置する。本資産は4世紀から現在まで続く「神宿る島」への信仰と関連する八つの構成資産からなる文化遺産である。構成資産は、日本列島と朝鮮半島との間に位置する沖ノ島全体と三つの岩礁からなる宗像大社沖津宮、大島の宗像大社沖津宮遙拝所と宗像大社中津宮、九州本土の宗像大社辺津宮と新原・奴山古墳群である。

沖ノ島には4世紀から9世紀の間の自然崇拜に基づく古代祭祀の変遷を示す、ほぼ手つかずの状態まで現代まで残されてきた比類のない考古遺跡がある。その奉献品の質と量は祭祀の重要性を示し、東アジアにおける活発な対外交流が進んだ500年間における祭祀の変遷の証拠として、顕著な考古学的な価値をもつ。沖ノ島と共通する祭祀は大島と九州本土でも7世紀から9世紀に行われた。古代祭祀遺跡を含む沖津宮、中津宮、辺津宮は、宗像大社として現在まで続く信仰の場である。沖津宮遙拝所は、18世紀までに成立した「神宿る島」を遙拝するための信仰の場である。5世紀から6世紀に築かれた新原・奴山古墳群は、沖ノ島祭祀を担い現在も続く信仰の伝統を発展させた宗像氏の証拠である。

本資産は、古代東アジアにおける活発な対外交流の中で発展した「神宿る島」を崇拝する文化的伝統が、海上の安全を願う生きた伝統と直結して今日まで継承されてきたことを物語る稀有な物証である。



※付随する岩礁(小屋島・御門柱・天狗岩)を含む。



※本遺産群は、世界遺産が有する顕著な普遍的価値の評価基準のうち、次の基準にあてはまるとして登録を目指している。

評価基準（ii）

建築、科学技術、記念碑、都市計画、景観設計の発展に重要な影響を与えた、ある期間にわたる価値観の交流又はある文化圏内での価値観の交流を示すものである。



本遺産群は、沖ノ島で始まった古代祭祀の変遷により、4～9世紀の東アジアにおける価値観の交流を示す。

評価基準（iii）

現存するか消滅しているかにかかわらず、ある文化的伝統又は文明の存在を伝承する物証として無二の存在(少なくとも希有な存在)である。



本遺産群は、「神宿る島」を崇拝する文化的伝統が古代から今日まで発展し継承されてきたことを物語る稀有な物証である。沖ノ島は 1500 年以上にわたり神聖な島とされてきた。

評価基準（vi）

顕著な普遍的価値を有する出来事（行事）、生きた伝統、思想、信仰、芸術的作品、あるいは文学的作品と直接または実質的関連がある。



沖ノ島に対する信仰から宗像三女神信仰への軌跡を伝える本遺産群は、海上の安全を願う生きた伝統との明白な関連がある。

宗像大社沖津宮（沖ノ島）

宗像大社沖津宮は信仰の対象である沖ノ島で4～9世紀に活発な対外交流の中で古代祭祀が行われ、その遺跡が禁忌とともに現代まで守り伝えられてきた信仰の場である。

宗像大社沖津宮は、九州本土から約60km離れた沖ノ島およびその付随する三つの岩礁（小屋島・御門柱・天狗岩）からなる信仰の場である。沖ノ島は周囲約4km、面積約68.38ha、最高所約243mの島であり、島そのものが信仰の対象となっている。沖ノ島と南東1kmにある付随する三つの岩礁は、宗像大社沖津宮境内として一体のものとして保護され、国指定史跡「宗像神社境内」及び国指定天然記念物「沖の島原始林」に指定されている。沖津宮は宗像大社三宮の一つであり、宗像三女神の一柱である田心姫神たごりひめのかみがまつられている。

九州北部から朝鮮半島へと向かう海路に位置する沖ノ島では、4世紀後半から日本と中国大陸・朝鮮半島の古代王朝との交流が活発化すると、航海の安全と交流の成就を願う祭祀が行われた。祭祀形態は四段階に変遷することが明らかになっており、このように明確な古代祭祀の変遷が分かる祭祀遺跡はほかにない。さらに、考古学的な調査によって約8万点の他に類を見ないほど豊富かつ質の高い奉獻品が出土し、その中には交流によってもたらされたものが含まれる。沖津宮の社殿は、17世紀半ば以前に巨岩の間に建てられた。

沖ノ島祭祀遺跡や島の豊かな自然は、人の立ち入りや一切の物の持ち出しを禁じるなど、厳重な禁忌によって、ほとんど人の手が加えられることなく良好な状態で受け継がれてきた。現在も島内は原則的に非公開であり、宗像大社の神職が1名10日交代で島に常駐し、毎日社殿での神事を行なっている。周辺海域で漁を行う宗像地域の漁業従事者たちの沖ノ島や宗像大社に対する信仰は篤く、自分たちが沖ノ島を守ってきたという自負を持ち、献魚などをして豊漁や漁の安全などを願っている。



宗像大社沖津宮（沖ノ島）

宗像大社沖津宮遙拝所

沖津宮遙拝所は沖ノ島を信仰の対象とする遙拝の生きた伝統を伝える物証である。

沖津宮遙拝所は、沖ノ島から南東に48km離れた福岡県最大の島である大島（周囲16.5km、面積7.45km²）にある信仰の場である。島そのものがご神体とされ、通常渡島できない沖ノ島に直接渡ることなく参拝するために、少なくとも18世紀中頃までに宗像大社の一部として設けられた。大島の北側の海辺に位置し、空気の澄みきった日には、ここから水平線にはっきりと沖ノ島を望むことができる。資産範囲全体が国指定史跡「宗像神社境内」に指定されている。



宗像大社沖津宮遙拝所

宗像大社中津宮

宗像大社中津宮は、沖ノ島から展開した7～9世紀の古代祭祀遺跡を起源とし、信仰を現代に継承する大島の信仰の場である。

中津宮は大島に所在し、宗像大社を構成する三宮の一つである。宗像三女神の湍津姫神たぎつひめのかみが祀られている。大島最高峰の御嶽山(標高224 m)山頂に御嶽山祭祀遺跡と摂社の御嶽神社とがあり、御嶽山の麓に中津宮社殿が建つ。中津宮社殿と御嶽山祭祀遺跡とは参道で結ばれ、御嶽神社とともに一体のものとして中津宮を形成し、国指定史跡「宗像神社境内」に指定されている。御嶽山山頂からは北西方向に沖ノ島、南東方向に辺津宮を望むことができる。御嶽山祭祀遺跡では7世紀後半から9世紀末頃にかけて露天の祭祀が行われ、沖ノ島露天祭祀遺跡と共通した奉獻品が出土している。現在の中津宮本殿は17世紀前半頃の再建とされ、県の有形文化財に指定されている。



宗像大社中津宮

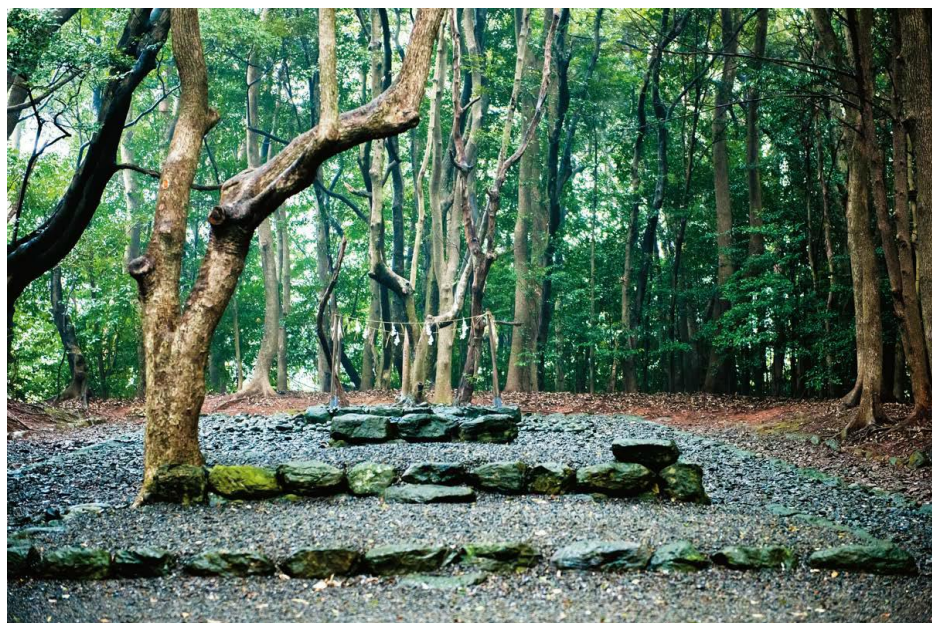
宗像大社辺津宮

宗像大社辺津宮は、沖ノ島から展開した7～9世紀の古代祭祀遺跡を起源とし、信仰を現代に継承する九州本土の信仰の場である。

辺津宮は、かつて入海であった九州本土の釣川沿いに位置し、宗像大社を構成する三宮の一つである。宗像三女神の市杵島姫神いちきしまひめのかみが祀られ、現在の宗像大社の神事を中心となっている。釣川に面した宗像山の中腹に古代の露天祭祀が行われた下高宮祭祀遺跡があり、その麓に社殿が建っている。資産範囲全体が国指定史跡「宗像神社境内」に指定されている。

宗像山の頂上は、境内で最も高所に位置し、大島・沖ノ島を望むことができるが、現在は禁足地となっている。下高宮祭祀遺跡には、沖ノ島や御嶽山と共通する土器や滑石製品が数多く散布し、社殿成立以前にここが祭祀の中心的な場であったことを物語る。一部は高宮祭場として現在も神事が行われ、公開されている。その北側の広場からは釣川やその周辺の田園風景、そして海へと至る眺望が開け、旧入海に面した立地を見てとることができる。1578年に再建された現在の辺津宮本殿、1590年に再建された辺津宮拝殿はともに国の重要文化財に指定されている。境内にはかつて第一宮と呼ばれた辺津宮本殿のほか、第二宮、第三宮といった社殿があり、市杵島姫神とともに沖津宮の田心姫神や中津宮の湍津姫神も祀られている。

境内にある宗像大社神宝館には、沖ノ島祭祀遺跡から出土した国宝約8万点に加え、宗像大社関係の古文書や奉納品などが保管、展示されている。



宗像大社辺津宮（高宮祭場）

新原・奴山古墳群

新原・奴山古墳群は、沖ノ島祭祀を執り行い、今に続く沖ノ島に対する信仰の伝統を築いた宗像氏の墳墓群である。

新原・奴山古墳群は、旧入海に面し、沖ノ島へと続く海や大島を見渡す九州本土の台地上に位置する。5世紀から6世紀にかけて築かれた前方後円墳5基、円墳35基、方墳1基の計41基の古墳で構成され、宗像氏の首長や有力者の古墳である。資産範囲全体が国指定史跡「津屋崎古墳群」として指定されており、旧入海の田園風景の中で良好な保存状態を保っている。宗像地域の古墳の中でも、沖ノ島祭祀を執り行い、今に続く沖ノ島に対する信仰の伝統を築いた宗像氏の性格をよく示す古墳群である。



新原・奴山古墳群

1-3 伝えるべき価値

公開・活用は、来訪者に本遺産群の価値を理解してもらうために行うものであるが、本遺産群の構成資産は地理的に分散して存在し、それぞれがもつ価値も多岐に渡る。そのため、世界遺産として推薦している内容に即して、遺産群全体として伝えるべき基本的な価値や事項を以下に整理しておく。

遺産群の公開・活用においては、これらの価値を適切に来訪者に伝えることが最も重要なことのひとつである。

本遺産群の基本的な価値・事項

- ◎「神宿る島」への信仰が古代から受け継がれてきた無二の証
- 沖ノ島および宗像地域の地理的な位置あるいは沖ノ島との位置関係
- 自然崇拝に基づく祭祀の変遷
- 古代東アジアにおける活発な対外交流
- 沖ノ島から三宮(宗像三女神)への信仰の展開
- 沖ノ島祭祀を担い信仰の伝統を築いた古代宗像氏
- 三宮における信仰の継承と海上の安全への祈り
- 沖ノ島に対する禁忌・遥拝などの生きた信仰の伝統
- 日本固有の信仰における歴史的意義と信仰の広がり

第 2 章

基本的な考え方

- 2-1 基本理念
- 2-2 基本方針
- 2-3 来訪の基本的な考え方
- 2-4 基本構想の体系

2-1 公開・活用の基本理念

本遺産群の特質に基づいて、公開・活用の基本理念を以下のように定める。

沖ノ島を敬いながら受け継がれてきた人類共通の価値を守り、高め、広く、長く伝えていく

○遺産群と伝統を守る ー生きた遺産群ー

沖ノ島の神秘性や遺産群の価値を長年守ってきた地域の伝統を、損なうことなく次世代に伝えます。

○価値を継続的に高める ー高まる遺産群ー

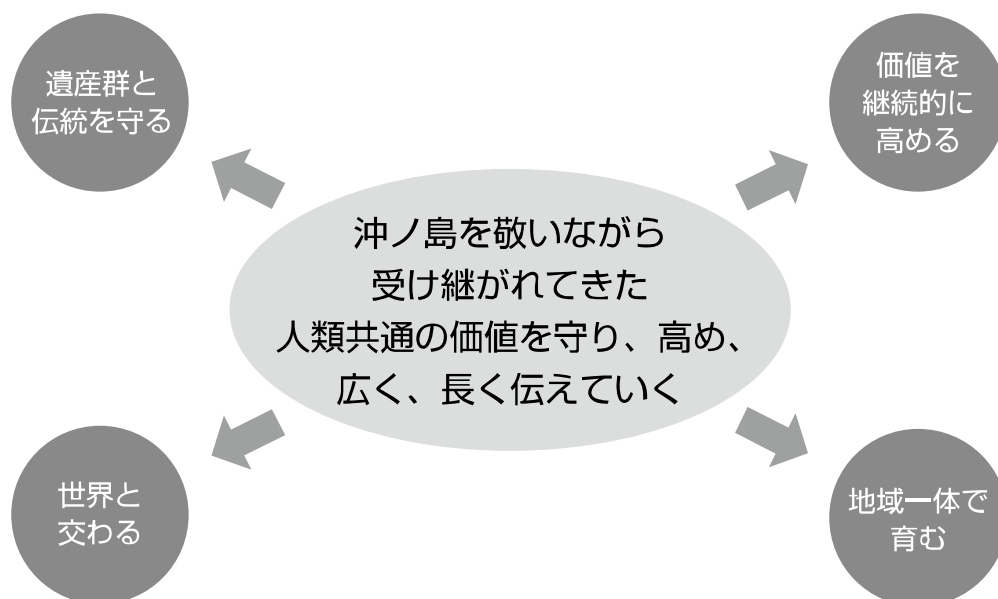
調査・研究、情報発信を継続して遺産群の価値の向上や保全を図り、分かりやすく伝えます。

○世界と交わる ーつながる遺産群ー

遺産群と関係の深い、アジアをはじめとする国内外の諸地域との交流を促進します。

○地域一体で育む ー私たちの遺産群ー

沖ノ島、大島、本土にまたがる遺産群とその周辺環境を、地域が一体となって育みます。

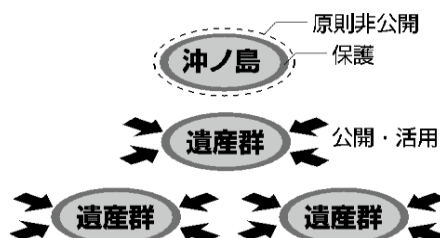


2-2 基本方針

基本理念のもとで、遺産群の「イメージの統合と正しい価値の発信」を実現していくための基本方針とその施策の方向性を以下のように定める。

方針1 遺産群の保護

世界遺産の最大の目的は、人類共通の宝として遺産を将来に伝えることである。そのため、遺産群の価値を損なわないよう、十分な保護を前提として公開・活用を行う。



○理念・方針の周知

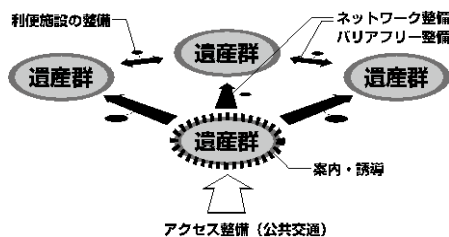
沖ノ島の原則非公開等、遺産群や信仰上の禁忌・慣習の保護を前提とすることを周知する。

○遺産群の整備

風化や災害、事故や公開・活用による遺産群の毀損を防ぐための整備・維持管理を行う。

方針2 円滑な来訪

来訪者が地理的に分散した各構成資産を円滑に来訪し、遺産群の価値を正しく理解できる環境を整える。



○展示・解説の充実

各エリアで遺産群全体の価値を理解できるよう、展示・解説施設等を整備する。

○便益施設の充実

トイレや休憩所等、来訪者が快適に遺産群を巡るための施設を整備する。

○来訪者動線の整備

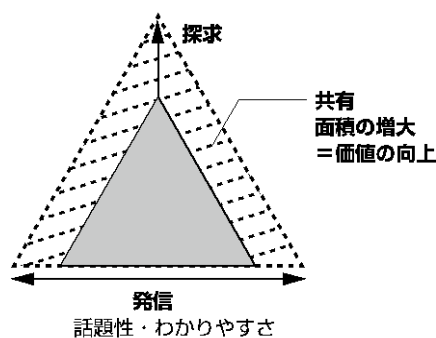
円滑に来訪できる公共交通ネットワークや、分かりやすい案内・解説システムを整備する。

○ユニバーサルデザイン

誰もが安全に遺産群にアクセスできるよう、バリアフリー整備や多言語表記等の整備を行う。

方針3 価値の探求と発信

遺産群にはまだ明らかになっていない価値が残されており、それが遺産群の価値でもある。継続的な価値の探求と発信によって、価値を広く共有していく。



○多面的な価値の探求

本遺産群に関わる歴史や信仰、伝承や風習など、未解明な価値について多面的に探求する。

○正しい価値の共有

遺産群の価値を正しく伝えるため、幅広い情報発信や教育活動を継続する。

方針4 地域との協調

遺産群の公開・活用には、地域住民をはじめとする多くの人々の理解と積極的な関わりが必要である。地域住民と来訪者、それぞれにとって好ましい環境を整える。



○連携体制の構築

遺産の管理主体や、活用に関わるボランティア、民間企業などが有機的に連携するための体制を構築する。

○事業の持続性の確保

事業採算性に配慮し、地元ならではの資源の活用など、来訪者のニーズに応えた魅力あるサービスの持続的な提供を目指す。

○地域住民への配慮

来訪者が住民に負担をかけることなく、生活の向上につながるようなシステムを築く。

2-3 来訪の基本的な考え方

基本理念および基本方針を踏まえて主な施策の方向性を示していくにあたり、各構成資産のつながりや全体像を理解する上で最適な本遺産群への来訪について、基本的な考え方を提示する。

エリアの設定と全体の考え方

まず構成資産の特性・まとまりから、本遺産群は「沖ノ島エリア」「大島エリア」「辺津宮エリア」「新原・奴山古墳群エリア」に分けられる。

「沖ノ島エリア」は原則非公開のため、沖ノ島（沖津宮）についての価値の解説は現地では行わず、展示・解説施設が集まる「辺津宮エリア」を中心に行い、全体として「沖ノ島エリア」を除くエリアへの来訪・回遊を促す。初めに展示・解説拠点を訪れ全体像を理解した上で各エリア・構成資産を巡ることが望ましい。

ただし、離れて存在する複数のエリアを一日で巡ろうとした場合、移動手段と時間に限界があるため、一つのエリアへの来訪だけでも遺産群全体としての基本的な価値が伝わるようにする。

交通手段については、来訪者増加による渋滞などの遺産群や周辺地域への悪影響を抑えるため、公共交通の利用を促す。

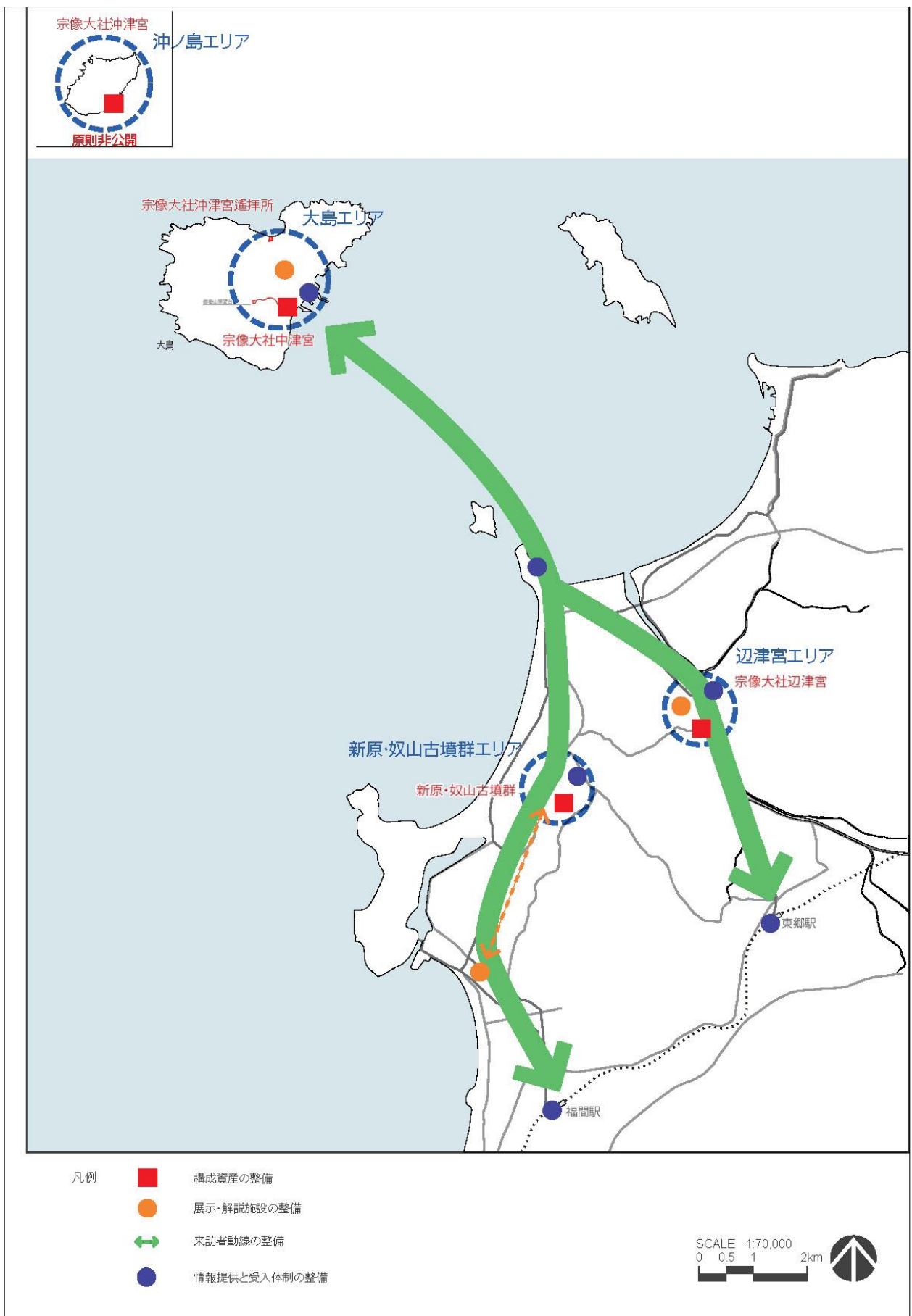
各エリアの位置づけ

「辺津宮エリア」は、古代から続く宗像三女神信仰の中心的存在である宗像大社辺津宮を中心としたエリアで、宗像大社神宝館・海の道むなかた館といった沖ノ島や遺産群全体の価値を伝える展示・解説施設が位置する。本遺産群の公開・活用の上でも核となるエリアである。

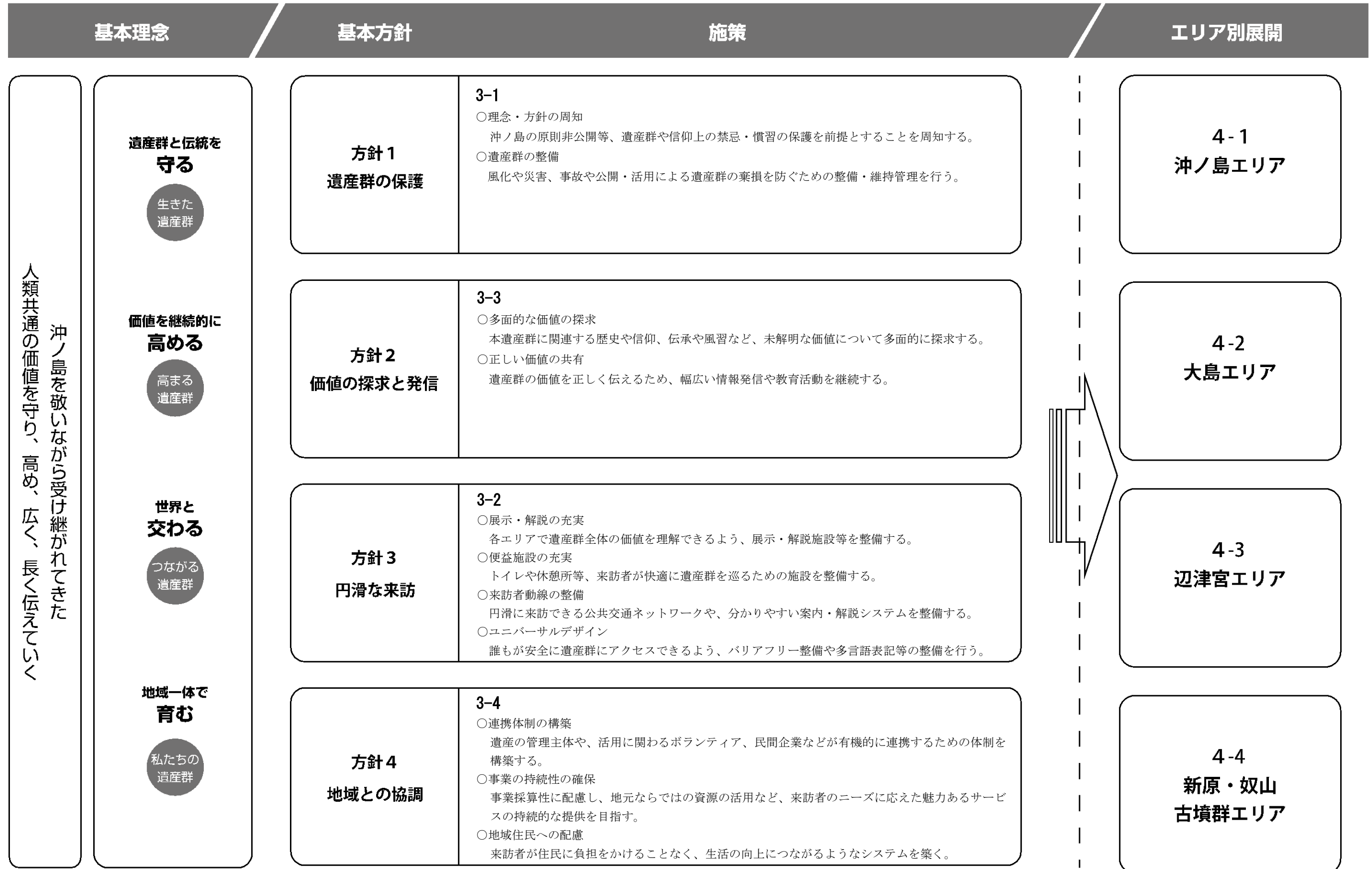
「大島エリア」は、辺津宮と同様に古代から続く宗像三女神信仰を伝える宗像大社中津宮と沖ノ島に対する信仰の伝統を象徴する宗像大社沖津宮遙拝所とを擁し、地域住民の沖ノ島および三女神への信仰は篤く、沖ノ島信仰の継承を実感する上で最適なエリアである。離島としての特質を踏まえた公開・活用が求められる

「新原・奴山古墳群エリア」は、沖ノ島への信仰の伝統を築いた古代豪族、宗像氏の墳墓である新原・奴山古墳群を中心としたエリアで、古代（古墳時代）以来、海との関係において宗像地域が繁栄し、信仰の伝統が育まれたことを伝えるべきエリアである。地続きの「辺津宮エリア」や近隣の津屋崎古墳群等の文化財との連携も重要である。

以上の基本方針と来訪の基本的考え方を踏まえ、主な施策の方向性を示し、エリア別に展開のあり方を整理する。



2-4 基本構想の体系



第 3 章

施策

- 3-1 遺産群の保護
- 3-2 円滑な来訪
- 3-3 価値の探求・発信
- 3-4 地域との協調

3-1 遺産群の保護

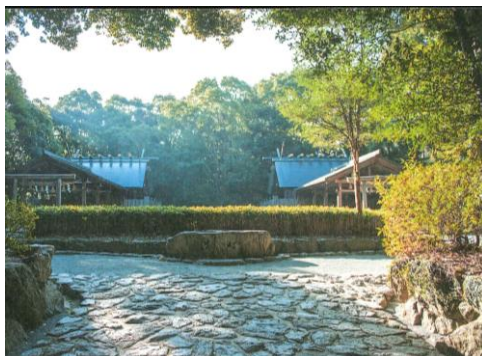
(1) 現状

各構成資産は文化財保護法により国指定史跡として保護されている。史跡「宗像神社境内」である宗像大社の各構成資産は、宗像大社が所有・管理者として建造物の修理・建替などの整備を行っている。史跡「津屋崎古墳群」の一部である新原・奴山古墳群は、主な所有・管理者である福津市により、整備基本計画が定められている。沖ノ島については、それに加えて禁忌や慣習によって長年にわたり守られている。



(2) 課題

各構成資産において、来訪者の増加について、影響の評価および対策を講じる必要がある。また、原則非公開ながら関心の高い沖ノ島をはじめとして、防犯対策や維持管理の充実も必要である。また、各構成資産の世界遺産としての整備に向けて、宗像大社と古墳群とでそれぞれ整備計画の策定や再検討を行う必要がある。



(3) 方針

① 理念・方針の周知

沖ノ島の原則非公開等、遺産群や信仰上の禁忌・慣習の保護を前提とすることを周知する。

・公開活用方針の明確化

来訪者の増加に対して遺産群の確実な保護ができるよう、関係者と調整を行い、公開活用方針を定める。

・沖ノ島非公開の周知

原則として上陸禁止とされてきた信仰上の禁忌・慣習を尊重し、広く一般に沖ノ島が非公開であることの周知を行う。

② 遺産群の整備

風化や災害、事故や公開・活用による遺産群の毀損を防ぐための整備・維持管理を行う。

・宗像大社の整備

公開・活用による遺産群の棄損を防ぐため、社殿の修理や参道の整備等、確実な保護を行い、保護を優先した案内・誘導を行う。歴史ある生きた信仰の場としての境内の雰囲気を保ち、周辺の景観にも配慮した整備を確実かつ計画的に行うため、史跡としての整備計画の策定を検討し、史跡地に隣接する御嶽山展望台や辺津宮境内周辺等、史跡地外の周辺整備についても、関係者と方向性の共有を図る。

・古墳群の整備

新原・奴山古墳群が遺産群の構成資産に決定する以前に策定された整備基本計画について再検討を行い、史跡地の公有化の進展にあわせ、園路やサインなどの整備を段階的に行う。

・防犯・防火対策

遺産群の見回り等に加えて、沖ノ島への侵入や各遺跡への盗掘防止、防火水槽の設置など、防犯・防火について検討を行い、対策を講じる。

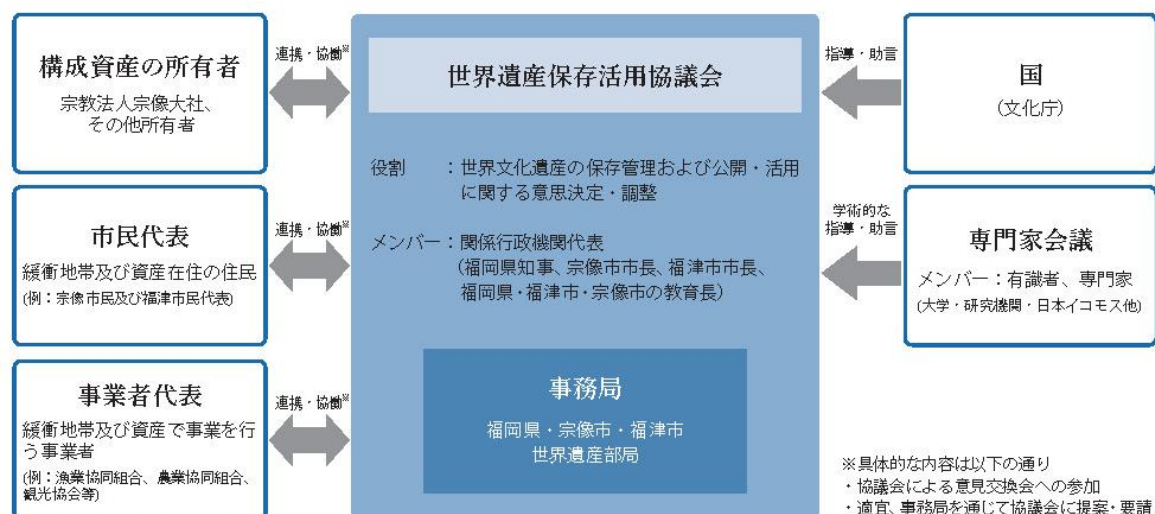
・遺産群の監視・経過観察

来訪者数の計測等、来訪者や自然環境等による遺産群への影響を定期的に記録・評価し、価値の保護に努める。

・管理者への支援

遺産群の価値を維持・向上させるための整備や日常的な維持管理について、管理者への支援を行う。

<参考> 「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群 保存管理体制



※世界遺産登録後は、福岡県・宗像市・福津市の関係行政機関の代表を構成員とする「保存活用協議会」を設立し、所有者との連携のもとで資産の保護および周辺環境の保全及び公開活用に関する方針の意思決定と調整を行う予定である。

3-2 円滑な来訪

(1) 現状

遺産群は沖ノ島、大島、九州本土に分散しているが、原則非公開とされている沖ノ島以外の構成資産へは、公共交通もしくは自家用車等を利用して訪問することが可能である。また、九州本土と大島の間は、毎日7便の市営渡船が運航しており、1日1415名の渡島が可能である。



遺産群についての展示・解説施設は、宗像大社辺津宮境内の宗像大社神宝館およびその近隣の海の道むなかた館があり、沖ノ島の出土遺物の収蔵・展示や沖ノ島の3D映像の展示等を行っている。各エリア・施設において、ボランティアガイドによる解説を受けることができる。

(2) 課題

遺産群を1日で全て訪れることは現実的には困難で、遺産群全体としての価値や各構成資産のつながりを解説する施設・機能も不十分であるため、一度の来訪で遺産群の全体像を理解しづらい状況にある。明確な動線を設定し、適切な価値の解説と円滑なアクセスを提供していく必要がある。



公共交通の利用を中心とした交通対策やサイン整備が不十分であり、駐車場やトイレなどの便益施設も不足しているところがある。また、バリアフリーの対応ができていないところが多い。

(3) 方針

① 展示・解説の充実

各エリアで遺産群全体の価値を理解できるよう、展示・解説施設等を整備する。

・展示・解説施設の整備

海の道むなかた館と神宝館、および新たに整備が予定されている大島の展示・解説施設（旧大島資料館）、福津市の複合文化施設（旧津屋崎庁舎）等が、エリア毎に展示・解説機能を分掌する（本遺産群の価値と各構成資産および展示・解説施設との関係の考え方については表参照）。

ただし、分散する遺産群全体の価値や非公開の沖ノ島の価値をわかりやすく伝えるために必要な展示・解説拠点（世界遺産センター（仮））のあり方について、周辺施設との連携や調査研究、休憩等を含めた機能、規模、立地場所等の検討を行い、方針を定める。当面は、むなかた館が遺産群全体の拠点的作用を果たすものとして整備を行う。

【遺産群全体の展示・解説拠点の機能例】

- ・展示機能／世界遺産としての価値や各構成遺産の価値の解説
- ・案内機能／遺産群や周辺の関連施設等への案内
- ・研究機能／遺産群についての調査研究
- ・発信機能／広報物の作成やイベント・講座の開催による情報発信
- ・体験機能／価値理解のためのイベントやワークショップによる体験
- ・管理機能／総合窓口やボランティアガイド等の管理・運営
- ・交流機能／地域住民や来訪者同士の交流
- ・交通機能／駐車場やバス停、レンタサイクル等
- ・休憩機能／休憩や飲食、物販等

② 便益施設の充実

来訪者が快適に遺産群を巡るための施設を整備する。

- ・トイレ・駐車場・休憩所の整備
トイレ・休憩所の設置など、快適に安心して来訪できるための便益施設の整備を行う。

③ 眺望環境の提供

遺産群のつながりを実感できる展望所や沖ノ島遠望スポットを整備する。

- ・展望所の整備
構成資産間の海域とともに自然と一体となった景観をよく残す本遺産群とその緩衝地帯において、眺望はその価値を伝える重要な要素であるため、辺津宮や中津宮（御嶽山展望台）、新原・奴山古墳群等において、本来の歴史的景観に沿うような修景や展望所（視点場）の整備方針の検討を行う。
- ・沖ノ島遠望スポットの紹介
御嶽山山頂や沖津宮遙拝所以外にも、海の向こうに沖ノ島を望むことのできる遠望スポットの紹介や整備を行う。

【表 本遺産群の価値の解説と探求の考え方】

| 遺産群の基本的な価値 | 構成資産（現地） | | | | | 理解を深める背景や知識 | 調査・研究内容（例） |
|-------------------------------|----------|-----|-----|-----|-----|---|--|
| | 沖ノ島 | 遙拝所 | 中津宮 | 辺津宮 | 古墳群 | | |
| 「神宿る島」への信仰が古代から受け継がれてきた無二の証 | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ・国内外の「神宿る島（神聖な島）」・祭祀遺跡・神社等との比較 | 信仰の対象となった島との比較（本遺産群の独自性・普遍性） |
| 沖ノ島及び宗像地域の地理的な位置あるいは沖ノ島との位置関係 | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ・各構成資産の自然環境（古環境）・地形・地質・立地（旧入海） ・旧入海を物語る塩田跡や船つなぎ石等の遺跡・文化財 | 宗像地域の古環境・歴史地理 |
| 自然崇拝に基づく祭祀の変遷 | ✓ | | ✓ | ✓ | | ・祭祀遺跡の発掘調査時の状況 ・古代祭祀とその変遷を理解するための信仰史的な背景 | 祭祀遺跡・奉獻品の基礎的調査（科学技術による非破壊調査） 祭祀の変遷の意義・背景 国内外の祭祀遺跡との比較 |
| 古代東アジアにおける活発な対外交流 | ✓ | | | | ✓ | ・古代祭祀が行われた各段階の歴史的な背景 | 対外交流を示す奉獻品の分析 宗像地域を中心とした対外交流史 |
| 沖ノ島から三宮（宗像三女神）への信仰の展開 | ✓ | | ✓ | ✓ | | ・古代祭祀遺跡から社殿を伴う神社境内への展開 ・社殿の成立の問題に関する建築史的な背景 | 宗像大社の境内および周辺環境の変遷過程 宗像大社の社殿とその成立 |
| 沖ノ島祭祀を担い信仰の伝統を築いた古代宗像氏 | ✓ | | | | ✓ | ・古墳時代および古墳に関する歴史的・考古学的背景 ・古代宗像地域の全体像 ・津屋崎古墳群等、その他の宗像地域の古墳群 | 宗像地域（宗像氏）と古代国家との関係 古代宗像地域（宗像氏）の特質 宗像地域の古墳（全体・個別） |
| 三宮における信仰の継承と海上の安全への祈り | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | | ・古代から現在に至る宗像大社の歴史 ・中世の宗像大社（大宮司家）の繁栄を物語る末社・山城跡等 ・歴史的に海とのつながりの深い宗像地域の文化・民俗・景観 | 宗像大社の信仰・神事 宗像大宮司家の歴史 近世・近代の宗像大社 宗像三女神信仰と海上交通および漁業との関係 宗像地域の歴史的な文化財や民俗 国内外の海洋神との比較 |
| 沖ノ島に対する禁忌・遙拝等の生きた信仰の伝統 | ✓ | ✓ | | | | ・禁忌等に関する逸話、民俗例 | 禁忌や遙拝についての比較 |
| 日本固有の信仰における歴史的意義と信仰の広がり | ✓ | | ✓ | ✓ | | ・神道の成立過程 ・宗像三女神信仰の分布状況 | 古代祭祀遺跡と日本の信仰 宗像三女神信仰の伝播過程と分布状況 |

沖ノ島については原則として非公開のため、展示・解説施設にて価値を伝える。

| 展示・解説施設 | | | |
|---|--|--|---|
| 海の道むなかた館 | 宗像大社神宝館 | 大島資料館 | 福津市複合文化施設 |
| ◎ 国内外の「神宿る島(神聖な島)」・祭祀遺跡・神社等との比較 | ◎ | ◎ | ◎ |
| ◎ 資産全体の自然環境(古環境)・地形・地質・立地(旧入海) 沖ノ島の自然環境・地形・地質 | ◎ 沖ノ島の地形・地質 辺津宮の地形・立地(入海) | ◎ 大島の自然環境・地形・地質・立地 | ◎ 古墳群の地形・地質・立地(旧入海) 旧入海を物語る塩田跡や船つなぎ石等 |
| ◎ 祭祀遺跡(沖ノ島、御嶽山)の発掘調査時の状況 古代祭祀とその変遷を理解するための信仰史的な背景 | ◎ 奉獻品展示 祭祀遺跡(沖ノ島、御嶽山)の発掘調査時の状況 | ◎ 御嶽山奉獻品展示(レプリカ等) 御嶽山祭祀遺跡の発掘調査時の状況 | ○ 古墳時代の信仰と古墳 |
| ◎ 古代祭祀が行われた各段階の歴史的な背景。 | ◎ 沖ノ島奉獻品(解説) | ◎ 御嶽山奉獻品展示(レプリカ等) | ○ 古墳時代の対外交流と宗像 |
| ○ 古代祭祀遺跡から社殿を伴う神社境内への展開 社殿の成立の問題に関する建築史的な背景 | ◎ 祭祀遺跡から社殿を伴う沖津宮・辺津宮境内への展開(境内図等) 社殿の成立の問題に関する建築史的な背景 | ◎ 御嶽山祭祀遺跡から社殿を伴う中津宮境内への展開(境内図等) | |
| ○ 記紀(宗像氏の記述) 古代宗像地域の全体像 | ○ 記紀(宗像氏の記述) | ○ 記紀(宗像氏の記述) 古代の大島(指輪等島内出土品) | ◎ 古墳時代および古墳に関する歴史的・考古学的背景 古墳時代の宗像 津屋崎古墳群等、その他の宗像地域の古墳群 |
| ◎ 古代から現在に至る宗像大社の歴史 中世の宗像大社(大宮司家)の繁栄を物語る末社・山城跡等 海とのつながりの深い宗像地域の文化・民俗・景観(みあれ祭) | ◎ 古代から現在に至る宗像大社の歴史(中世の宗像大社の繁栄) | ◎ 大島(遙拝所・中津宮)の歴史と信仰 大島の宗像大社の末社等 海とのつながりの深い大島の文化・民俗・景観(みあれ祭) | ○ 航海と宗像氏 中世の宗像大社と福津市域(唐坊、末社等) |
| ◎ 禁忌等に関する逸話、民俗例 | ◎ | ◎ 禁忌等に関する逸話、民俗例 | |
| ◎ 神道の成立過程 宗像三女神信仰の分布状況 | ◎ 神道の成立過程 宗像三女神信仰の分布状況 | ○ | |

④ 来訪者動線の整備

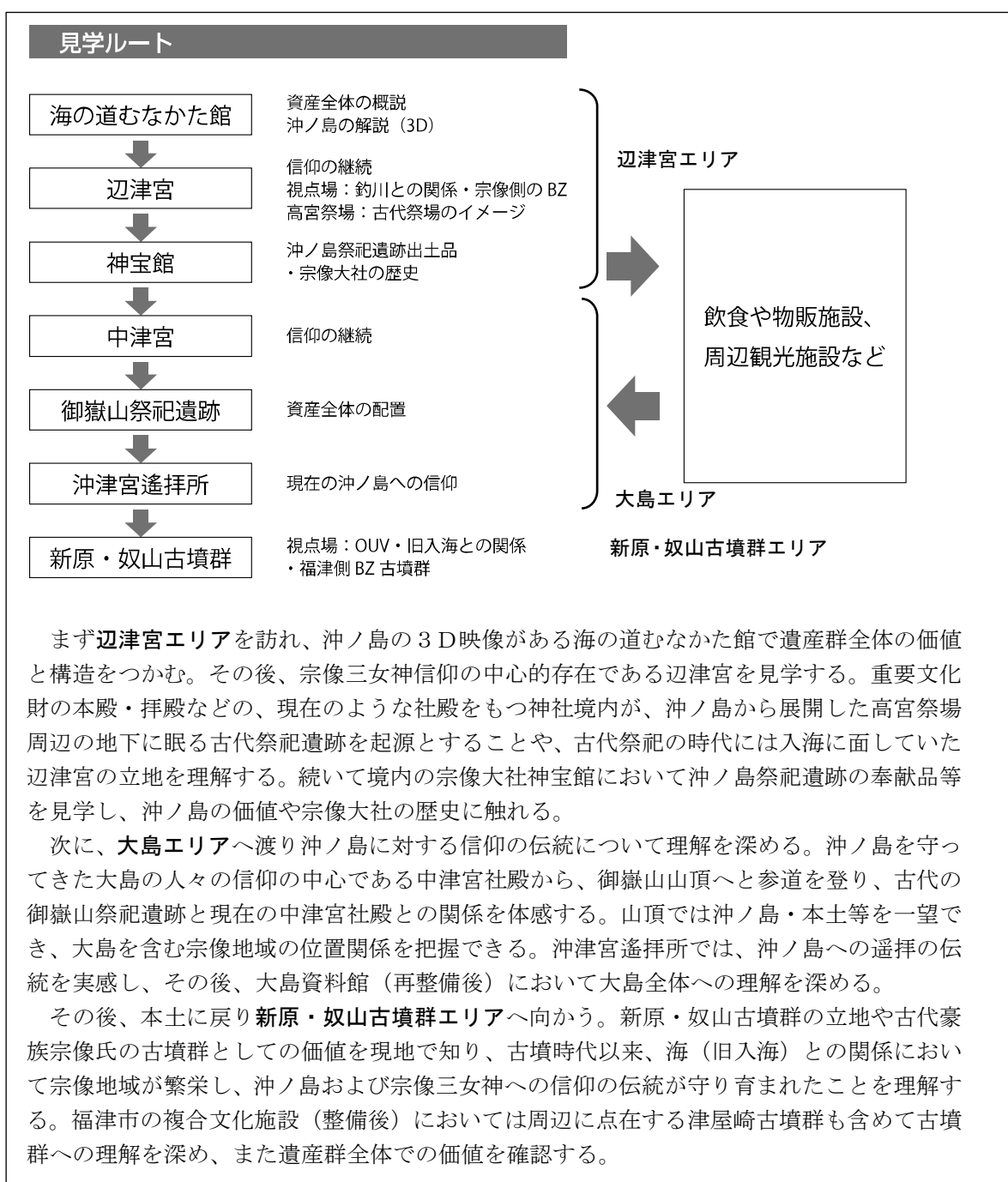
円滑に来訪できる公共交通ネットワークや、分かりやすい案内・解説システムを整備する。

・見学ルートの設定・提示

遺産群全体の基本的な価値を理解する見学ルートや、エリア毎に構成資産についての理解を深めるルートなど、来訪者の関心やニーズに応じたルートの設定と情報提供を行っていく。

構成資産のつながりや全体像を理解してもらうためのモデルコースを例示する。

【世界遺産見学ルート例】



- ・バスネットワークの構築

各構成資産および渡船ターミナルまでは西鉄バス及びコミュニティバスが運行されているが、来訪者にとって不便な状況であるため、路線変更やバス停の新規設置、シャトルバスの運行、大島島内観光バスの運行などの検討を行い、対策を講じる。

- ・サインの整備

遺産群への案内・誘導および各構成資産での誘導や価値の解説を行うサインについて、ガイドマップ等との連携を図りつつ、サインガイドラインに基づいて統一的に整備していく。両市の構成資産や関連施設間で相互への案内を行い、既存の道路標識・サインについては設置者等との連絡調整や整備を行う。

- ・案内施設の充実

遺産群に関する案内・誘導や交通情報の提供等を行う案内施設について、交通拠点等における整備、総合的な案内窓口（コールセンター）の設置、外国人の資金決済や交通機関との連携等におけるIT活用等を検討し、来訪者の利便性の向上を図る。

- ・ガイドの提供

遺産群の価値の解説を行うボランティアガイドについて、質の担保と体制の充実に努めるとともに、各団体同士での連携や役割分担等を検討し、来訪者の積極的なガイド利用を促す。

- ・来訪情報の提供

来訪者に対して、適切な交通経路やイベント情報、飲食店情報、来訪マナー等の事前の案内を十分に行い、来訪者および地域住民双方の便宜を図る。

- ・自転車利用環境の整備

遺産群周辺では徒歩もしくは自転車での周遊を推奨するため、自転車道路や駐輪所の設備、両市共同でのレンタサイクルなどの検討を行う。

⑤ ユニバーサルデザイン

誰もが安全に遺産群にアクセスできるよう、バリアフリー整備や多言語表記等の整備を行う。

- ・バリアフリー化

来訪者動線および各構成資産の特性に応じてバリアフリー化を検討し、関係者との調整を図る。

- ・多言語対応の推進

世界遺産として海外からの来訪者への対応を行うため、インターネットやパンフレット、サイン等での多言語対応を推進する。

- ・インターネット接続環境の充実

携帯端末によって来訪者が様々な情報を取得できるよう、Wi-Fi 環境の整備等を検討する。

3-3 価値の探求・発信

(1) 現状

宗像大社に関しては、1954～1971年の沖ノ島の学術調査成果をはじめ、『宗像神社史』および『宗像大社文書』などの宗像神社（宗像大社）復興期成会による充実した調査成果がある。新原・奴山古墳群については、墳丘の測量調査や一部の発掘調査の成果がある。推進会議としては、国内外の専門家による3か年（2010～2013年）の研究事業を行い、これらの成果に基づいて、世界遺産としての顕著な普遍的価値の証明と、その発信に努めている。



「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群を世界遺産に／
「宗像・沖ノ島と関連遺産群」世界遺産推進会議
URL: <http://www.okinoshima-heritage.jp/>

(2) 課題

本遺産群は古代から非常に長い期間にわたって守り伝えられてきたものであり、なお未解明の価値が数多く残されている。特に沖ノ島祭祀遺跡に関しても、奉獻品を中心に調査・研究の余地がある。また、登録後も継続的に適切な情報発信を行っていく必要がある。調査・研究を行って未解明の価値を多面的に探求することで、本遺産群についての新たな発信を繰り返すことができるが、そのための体制は十分ではない。

(3) 方針

① 多面的な価値の探求

本遺産群に関連する歴史や信仰、伝承や風習など、未解明の価値を多面的に探求する。

・調査・研究の実施

本遺産群の価値を高め、保存管理や展示・解説の基礎となる調査・研究を、県・市・宗像大社が連携して継続的に実施することを図る。考古学・歴史学・民俗学・建築学等にわたる調査・研究の内容については、本遺産群の基本的な価値に即し（表）、宗像大社所蔵の考古・歴史資料や宗像地域関係の文化財資料の把握調査の進展に伴って、優先して行うべき内容を決定していく。

・学術交流と研究の促進

調査・研究にあたっては、大学・研究機関等との共同研究等、国内

外その他機関との学術交流を図る。調査・研究の成果は報告書や研究紀要等の発行やインターネット等で広く公開し、本資産に関する研究活動への助成を行うなど、さらなる研究の進展を促進する。

② 正しい価値の共有

遺産群の価値を正しく伝えるため、幅広い情報発信や教育活動を継続する。

・企画展・講演会の開催

遺産群全体の価値をより広く共有していくために、展示・解説施設での展示に加え、イベントや講座、ワークショップなどを行う。調査・研究の成果についても、刊行物・展示等で分かりやすく情報発信する。

・広報媒体の作成・発行

正しい価値を広く共有・定着させるため、伝えるべき価値の整理を十分に行った上で、印刷物の発行等の多言語での各種の情報発信を行っていく。学術的・専門的見地からの正確性を担保する一方で、平易かつ簡潔な表現にするなど、媒体に応じて発信の仕方を工夫する。また、国内外の異なった文化的背景の人々に対しても誤解なく価値が伝わるよう配慮する。

・統一的イメージの発信

広報媒体の作成や写真素材の提供等にあたっては、広報物ガイドラインに基づき、信仰に関わる一つの遺産群としての統一的なイメージを発信に努める。

・学校教育との連携

体験・学習プログラムや教材の開発など、学校教育を対象とした世界遺産学習の充実を図る。

3-4 地域との協調

(1) 現状

宗像大社は地域の氏子組織に支えられており、新原・奴山古墳群でも近隣住民が清掃活動を行うなど、地域住民は様々な形で遺産群の保存管理に関与している。2009年の暫定リスト登録以来、世界遺産登録活動は、関係行政機関、経済団体、市民代表、文化教育団体、宗像大社等の代表で構成される「宗像・沖ノ島と関連遺産群」世界遺産推進会議を中心に推進されてきた。



(2) 課題

世界遺産登録に伴う来訪者の急激な増大により、渋滞・混雑が発生するなど、地域住民の日常生活に悪影響を及ぼす可能性がある。一方、来訪者の増加を一時的なものにしないため、地域が一体となって来訪体験の質を向上させる事業を持続的に提供していく必要がある。



(3) 方針

① 連携体制の構築

遺産の管理主体や、活用に関わるボランティア、民間企業などが有機的に連携するための体制を構築する。

・民間と行政の協力

世界遺産登録後、福岡県・宗像市・福津市の関係行政機関の代表を構成員とする「保存活用協議会」は、所有者や市民代表、及び事業者代表、地域コミュニティとの連携のもとで遺産群の保護、周辺環境の保全及び公開活用に関する方針の意思決定と調整を行う予定である。このほかに、今後も各民間団体や企業等に遺産群の保護や活用へ積極的に関与してもらうための体制づくりを検討する。

② 事業の持続性の確保

事業採算性に配慮し、地元ならではの資源の活用など、来訪者のニーズに応えた魅力あるサービスの持続的な提供を目指す。

- ・地域のホスピタリティやブランドの向上

ホテル・飲食店等の観光事業者やタクシー・バス運転手を対象とした遺産群についての講習や情報提供を行い、地域が一体となって来訪者へのおもてなしを行う。また、食材など地元ならではの資源の活用等を検討し、地域全体としてのブランドを向上させることを目指す。

- ・広域観光ルートの提案による誘客

遺産群以外の文化財や観光資源も含めた広域の観光ルートとの連携を検討し、広く遺産群の魅力を訴求していく。

③ 地域住民への配慮

来訪者が住民に負担をかけることなく、生活の向上につながるようなシステムを築く。

- ・渋滞・混雑対策

世界遺産登録による来訪者の増加に備えて、地域住民の生活路線でもある動線において、頻繁な渋滞や混雑の発生を回避するための対策を検討する。特に、大島航路において島民の利用を妨げることのないよう配慮する。

- ・マナーの周知

様々な文化的背景をもつ来訪者に対して、生活者の目線に立った来訪マナーや神社への参拝の心得をパンフレットやホームページ等によって周知し、地域住民の生活や周辺環境に悪影響が及ばないようにする。

- ・地域学習における活用の促進

将来の遺産群の保護と活用を担う次の世代を養成するため、地域学習における遺産群の活用の促進を図る。

第 4 章

エリア別展開

- 4-1 沖ノ島エリア
- 4-2 大島エリア
- 4-3 辺津宮エリア
- 4-4 新原・奴山古墳群エリア

4-1 沖ノ島エリア

(1) エリアの概要

■構成資産

宗像大社沖津宮(沖ノ島・小屋島・御門柱・天狗岩)



■世界遺産としての価値

「神宿る島」

宗像大社沖津宮は、信仰の対象である沖ノ島で4～9世紀に活発な対外交流の中で古代祭祀が行われ、その遺跡が禁忌とともに現代まで守り伝えられてきた信仰の場である。

| 遺産群の基本的な価値 | 沖ノ島エリアとの関わり |
|-------------------------------|---|
| 「神宿る島」への信仰が古代から受け継がれてきた無二の証 | <ul style="list-style-type: none"> ・巨岩群における自然崇拝に基づいた祭祀の変遷を伝える古代祭祀遺跡が、ほぼ手つかずで伝えられてきた。 ・島全体が信仰の対象（御神体）とされ、禁忌により原則非公開とされている。 |
| 沖ノ島及び宗像地域の地理的な位置あるいは沖ノ島との位置関係 | <p>朝鮮半島と日本列島との間、玄界灘のほぼ中央に位置しており、古来航海の道標となった。</p> |
| 自然崇拝に基づく祭祀の変遷 | <ul style="list-style-type: none"> ・古代祭祀は岩上→岩陰→半岩陰・半露天→露天と形態を変化させたことが学術調査により判明している。 ・7世紀後半には人格神に対する祭祀となり、古代祭祀を起源として社殿での神事が現在も行われている。 ・出土した奉獻品は古代の対外交流と祭祀の変容の証として、約8万点全てが国宝に指定されている（辺津宮境内の宗像大社神宝館所蔵）。 |
| 古代東アジアにおける活発な対外交流 | <ul style="list-style-type: none"> ・活発な対外交流の中で古代祭祀が行われ、奉獻品の内容の変化は当時の交流の実態を反映している。 |
| 沖ノ島から三宮（宗像三女神）への信仰の展開 | <ul style="list-style-type: none"> ・日本最古の歴史書（『古事記』『日本書紀』）の記述から、7世紀後半には宗像三女神に対する祭祀が行われていたことが判明する。 ・17世紀までに社殿が設けられ、田心姫神がまつられている。 |
| 沖ノ島祭祀を担い信仰の伝統を築いた古代宗像氏 | <ul style="list-style-type: none"> ・宗像氏はヤマト王権のもとで沖ノ島での祭祀を執り行った。 |
| 三宮における信仰の継承と海上の安全への祈り | <ul style="list-style-type: none"> ・古代祭祀は大陸への航海の安全を祈って行われ、現在も漁業者による信仰が篤い。 |
| 沖ノ島に対する禁忌・遷拝等の生きた信仰の伝統 | <ul style="list-style-type: none"> ・禁忌によって人の立ち入りや物の持ち出しなどが固く禁じられ、島全体が良好な状態で守り伝えられてきた。 |
| 日本固有の信仰における歴史的意義と信仰の広がり | <ul style="list-style-type: none"> ・日本固有の信仰の原型が形成される一段階を示す遺跡として代表的存在であり、最も古くからの確かな連続性をもつ神社である。 |

(2) 現況と課題

○原則非公開

禁忌によって原則として非公開であるため、展示・解説は九州本土や大島で行う必要がある。

○防犯対策

世界遺産登録によって注目が高まるため、プレジャーボートなどで来訪する人への対応、特に祭祀遺跡への盗掘等に対する防犯対策を行う必要がある。

○維持管理と修景

モルタルの法面やコンクリートの港湾部は信仰の対象となっている島の玄関口としては人工的・近代的な印象を受けるため、維持管理の中で修景を検討していく必要がある。

(3) 方針

原則非公開とし、現地での価値の解説は行わず、価値を保護し、維持・管理するための整備を行う。

【遺産群の保護】

- 信仰の対象として厳しい禁忌等によって守られてきた、非公開の島であることについて方針を明確化し、周知する。
- 整備は祭祀遺跡の保存や信仰活動上で必要なものに限り、価値を保護するための維持・管理や「神宿る島」にふさわしい修景を行う。

【円滑な来訪】

- 現地での価値の解説や来訪者のための整備は行わず、九州本土や大島において展示・解説を行う。

【価値の探求・発信】

- 沖ノ島祭祀遺跡の奉獻品を中心に、調査研究を継続する。
- 広報・情報発信にあたって、信仰の対象として神秘的な沖ノ島のイメージを守る。

【地域との協調】

- 沖ノ島を守ってきた地元漁師による漁業を妨げず、協力して島の維持管理に努める。

4-2 大島エリア

(1) エリアの概要

■構成資産

宗像大社沖津宮遙拝所

宗像大社中津宮

■世界遺産としての価値

「沖ノ島を守ってきた人々の島」

宗像大社沖津宮遙拝所は沖ノ島を信仰の対象とする遙拝の生きた伝統を伝える物証である。宗像大社中津宮は、沖ノ島から展開した7～9世紀の古代祭祀遺跡を源流とし、信仰を現代に継承する大島の信仰の場である。



| 遺産群の基本的な価値 | 大島エリアとの関わり |
|-------------------------------|--|
| 「神宿る島」への信仰が古代から受け継がれてきた無二の証 | <ul style="list-style-type: none"> ・原則非公開の「神宿る島」沖ノ島を遙拝する伝統が息づく場。 ・人々は古代からの自然崇拝に基づいた沖ノ島や宗像三女神への信仰を根強く保持している。 |
| 沖ノ島及び宗像地域の地理的な位置あるいは沖ノ島との位置関係 | <ul style="list-style-type: none"> ・御嶽山山頂からは九州本土や近隣の海域が見渡せ、空気の澄んだ日にはよく沖ノ島を望むことができ、本遺産群の位置関係をよく理解できる。 |
| 自然崇拝に基づく祭祀の変遷 | <ul style="list-style-type: none"> ・御嶽山山頂の御嶽山祭祀遺跡（大島御嶽山遺跡）は、沖ノ島の露天祭祀遺跡と共通し、麓の中津宮社殿とは現在も参道で結ばれている。 |
| 古代東アジアにおける活発な対外交流 | |
| 沖ノ島から三宮（宗像三女神）への信仰の展開 | <ul style="list-style-type: none"> ・日本最古の歴史書（『古事記』『日本書紀』）の記述から、7世紀後半には宗像三女神に対する祭祀が行われていたことが判明する。 ・御嶽山祭祀遺跡を起源として麓に社殿を伴う境内が展開し、湍津姫神がまつられている。 |
| 沖ノ島祭祀を担い信仰の伝統を築いた古代宗像氏 | |
| 三宮における信仰の継承と海上の安全への祈り | <ul style="list-style-type: none"> ・沖ノ島および沖津宮遙拝所・中津宮は、漁業を中心とする大島の人々の生活や信仰と関わりが深い。 |
| 沖ノ島に対する禁忌・遙拝等の生きた信仰の伝統 | <ul style="list-style-type: none"> ・沖津宮遙拝所は禁忌等の沖ノ島に対する信仰の伝統を象徴する。 |
| 日本固有の信仰における歴史的意義と信仰の広がり | <ul style="list-style-type: none"> ・中津宮は宗像大社三宮の一つとして、古代以来の歴史をもっている。 |

(2) 現況と課題

○防犯対策

御嶽山山頂の御嶽神社や御嶽山祭祀遺跡、沖津宮遙拝所には人が常駐しておらず、いたずらや放火・盗掘等への対策が必要である。

○価値の解説

宗像大社中津宮について、古代祭祀が行われた山頂と麓の本殿・拝殿との関係を理解できるような展示・解説が必要である。御嶽山祭祀遺跡は現地における案内・解説がなされておらず、調査によって出土した遺物は宗像大社神宝館で展示・保管されている。沖津宮遙拝所が象徴する遙拝の伝統や、大島と沖ノ島との関係についても、展示・解説が十分でない。

○交通アクセス

島への渡船運航は一日7往復であり、来訪者が急増した場合には島民等従来の利用者との調整が必要である。島内の移動は徒歩や巡回バスの利用を基本とするが、巡回バスの運行日・本数等に限りがある。

(3) 方針

沖ノ島への信仰の伝統が根付き、それを守ってきた人々が暮らす島として、価値の解説や修景等を行い、大島独自の特性を活かした公開・活用を行う。

【遺産群の保護】

○御嶽神社や御嶽山祭祀遺跡、沖津宮遙拝所を中心に、遺産群への巡回や監視を徹底・強化する。

【円滑な来訪】

○旧大島資料館を活用して、大島の歴史や文化・民俗、島内の構成資産についての展示・解説を行う。

○御嶽山参道および山頂部への休憩ポイントの設置やトイレの改修など、来訪者が安心・安全に利用できる環境を整備する。

○眺望の解説の充実や眺望景観の改善等も含め、御嶽山展望台の整備を検討する。

○島内を回遊できる遊歩道やサインを整備する。

○島内巡回バスの運行体制を改善し、利便性を高める。

○インターネットや大島と神湊の渡船ターミナルにおける告知等により、飲食店等の大島への来訪に関する事前の情報提供を充実させる。

【価値の探求・発信】

○沖ノ島と関係が深い大島の歴史や文化・民俗について調査研究を行う。

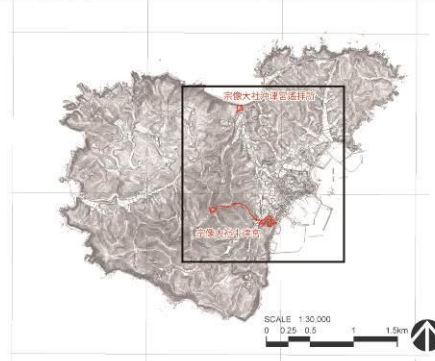
【地域との協調】

○ガイドや食事等、大島ならではのサービスの提供を検討する。

○来訪者の増加により渡船が利用できなくなるなど、島民の生活に支障が出ないように方策の検討や来訪マナーの周知を行う。



| 凡例 | |
|-------------------|--------|
| 資産範囲 | トイレ |
| 祭祀遺跡 | 駐車場 |
| 公開区域 | バス動線 |
| 非公開区域 (外から見学可) | 主な自動車道 |
| 文化財建造物 | 歩行者動線 |
| 信仰関連施設 | バスのりば |
| その他建築 | 展示施設 |
| 管理事務所 | 案内施設 |
| 展示施設 | 全体動線 |



4-3 辺津宮エリア

(1) エリアの概要

■構成資産

宗像大社辺津宮

■世界遺産としての価値

「古代から続く宗像三女神信仰の中心的存在」

宗像大社辺津宮は、沖ノ島から展開した7～9世紀の古代祭祀遺跡を源流とし、信仰を現代に継承する九州本土の信仰の場である。



| 遺産群の基本的な価値 | 辺津宮エリアとの関わり |
|-------------------------------|---|
| 「神宿る島」への信仰が古代から受け継がれてきた無二の証 | ・下高宮祭祀遺跡は沖ノ島の露天祭祀遺跡と共通し、辺津宮は古代以来の宗像三女神への信仰の場である。 |
| 沖ノ島及び宗像地域の地理的な位置あるいは沖ノ島との位置関係 | ・辺津宮周辺には古代には入海が広がっていた（『日本書紀』「海浜」）。 ・宗像山中腹の下高宮祭祀遺跡（高宮祭場）からは、釣川や農地となっているかつての入海の範囲や大島、玄界灘を見渡すことができる。 |
| 自然崇拝に基づく祭祀の変遷 | ・下高宮祭祀遺跡は沖ノ島の露天祭祀遺跡と共通し、かつての入海に面した低地に社殿を伴う境内が展開した。 |
| 古代東アジアにおける活発な対外交流 | |
| 沖ノ島から三宮（宗像三女神）への信仰の展開 | ・日本最古の歴史書（『古事記』『日本書紀』）の記述から、7世紀後半には宗像三女神に対する祭祀が行われていたことが判明する。 ・下高宮祭祀遺跡を起源として麓に社殿を伴う境内が展開し、市杵島姫神がまつられている。 |
| 沖ノ島祭祀を担い信仰の伝統を築いた古代宗像氏 | |
| 三宮における信仰の継承と海上の安全への祈り | ・国指定の重要文化財となっている本殿・拝殿に加え第二宮・第三宮で宗像三女神をまつる辺津宮は、宗像大社の神事の中心となってきた。 ・中世の神事にも釣川や海とのつながりが窺われる。 |
| 沖ノ島に対する禁忌・遥拝等の生きた信仰の伝統 | |
| 日本固有の信仰における歴史的意義と信仰の広がり | ・宗像大社は全国約6000社に広がるとされる宗像神信仰の原点であり、辺津宮はその総社に位置づけられる。 |

(2) 現況と課題

○境内整備

宗像大社では、昭和期の造営事業から数十年が経過し、社殿の修理を含む境内の再整備事業（「平成ノ御造営」）が進行中で、辺津宮でも本殿・拝殿の修理が行われたほか、今後も境内整備が予定されている。史跡としては保存管理計画が策定されているが、整備計画は策定されていない。

○価値の解説

本土に位置する辺津宮は、遺産群の中では最も来訪者が多く、宗像大社神宝館や海の道むなかた館といった展示・解説施設も集まっている。それらは原則非公開の沖ノ島の価値を展示・解説する役割を果たしているが、遺産群全体や古代から現在に至る辺津宮および宗像大社全体の歴史に関する展示・解説は十分行われていない。特に現地では、古代祭祀が行われた下高宮（高宮祭場）と麓の社殿群との関係や、古代には釣川が入海であったことを解説する必要がある。

○渋滞対策

現在も公共交通機関での来訪は可能であるが、多くの人が自家用車で訪れており、来訪者が急増すると正月のような交通渋滞が恒常化する可能性も懸念される。辺津宮への動線は周辺住民の生活道路となっており、対策が必要である。

(3) 方針

遺産群の公開・活用における中心的な役割を果たす場所として、辺津宮自体の価値に加え、沖ノ島や遺産群全体の展示・解説を行う。

【遺産群の保護】

○今後の境内整備に向けて、境内の周辺も含めた将来像について関係者間でイメージを検討・共有する。

【円滑な来訪】

○当面は海の道むなかた館において遺産群全体の価値の展示・解説を行い、宗像大社神宝館とも連携して、原則非公開の沖ノ島の価値や宗像大社の歴史を伝える。

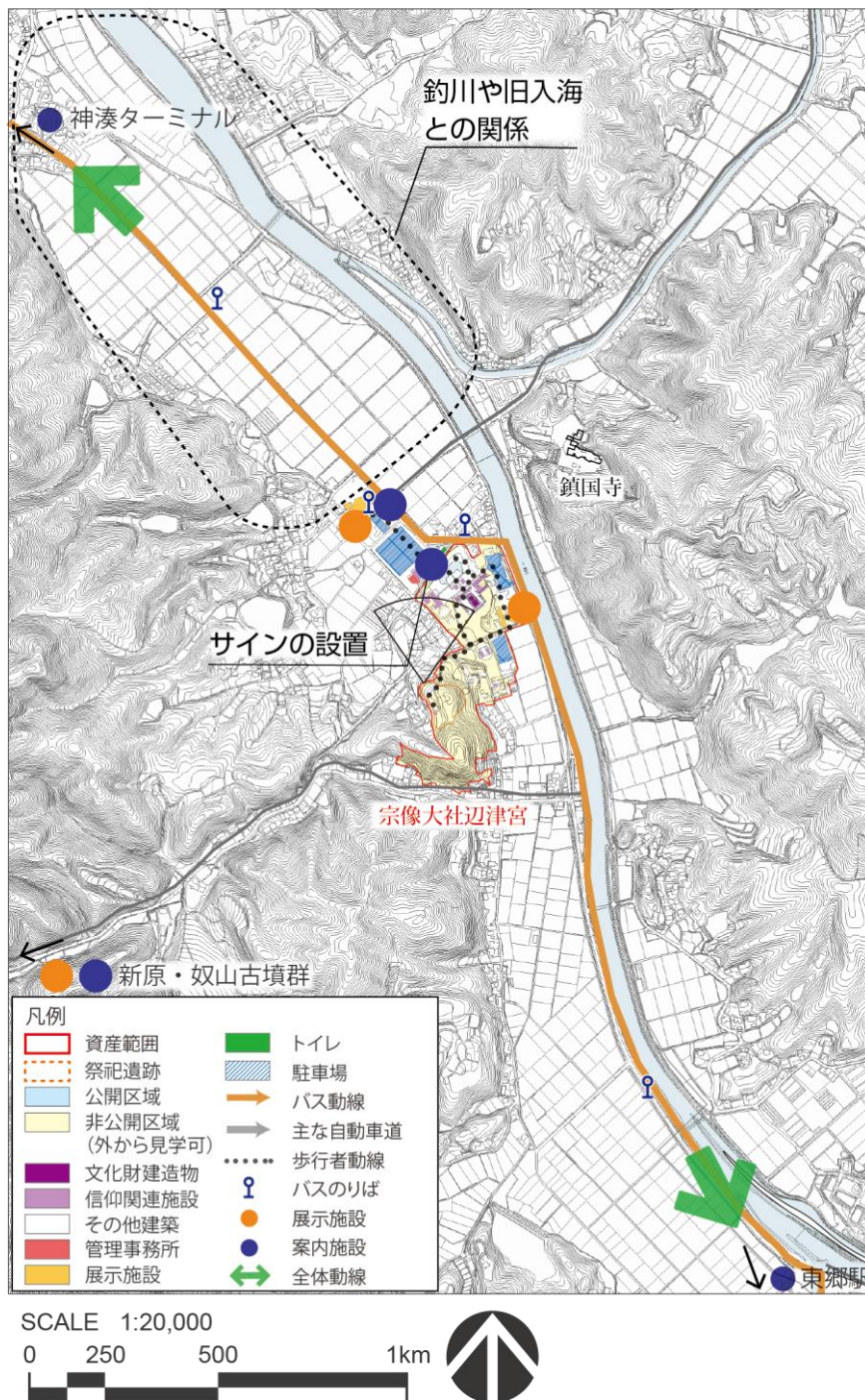
○釣川との位置関係や古代祭祀遺跡の存在等、史跡あるいは世界遺産としての価値をサイン整備やパンフレット等により現地で解説する。

【価値の探求・発信】

○宗像大社神宝館と連携して、沖ノ島祭祀遺跡の奉獻品を始めとした所蔵品の調査を行う。

【地域との協調】

- 来訪者の集中が予想されるため、渋滞の抑止策を検討する。
- 海外からの来訪者の増加に備え、多言語のパンフレット等で来訪・参拝マナーの告知を行う。



4-4 新原・奴山古墳群エリア

(1) エリアの概要

■構成資産

新原・奴山古墳群

■世界遺産としての価値

「沖ノ島への信仰の伝統を築いた宗像氏が眠る墓」

新原・奴山古墳群は、沖ノ島祭祀を執り行い、今に続く沖ノ島に対する信仰の伝統を築いた宗像氏の墳墓群である。



| 遺産群の基本的な価値 | 新原・奴山古墳群エリアとの関わり |
|-------------------------------|--|
| 「神宿る島」への信仰が古代から受け継がれてきた無二の証 | ・沖ノ島での祭祀を行い、現在まで続く「神宿る島」への信仰の伝統を築いた古代豪族宗像氏の物証。 |
| 沖ノ島及び宗像地域の地理的な位置あるいは沖ノ島との位置関係 | ・旧入海に面し、その向こうには大島や、沖ノ島へと続く海を見渡すことができる。 |
| 自然崇拝に基づく祭祀の変遷 | |
| 古代東アジアにおける活発な対外交流 | ・高い航海技術をもった宗像氏は、宗像地域から朝鮮半島へと渡る海域を支配し、活発な対外交流に携わった。 |
| 沖ノ島から三宮（宗像三女神）への信仰の展開 | |
| 沖ノ島祭祀を担い信仰の伝統を築いた古代宗像氏 | ・5世紀から6世紀にかけて築かれた、前方後円墳5基を含む計41基の宗像氏の古墳群である。 ・宗像氏は日本最古の歴史書（『古事記』『日本書紀』）に、三つの宮で宗像三女神をまつっていると記される。 ・宗像氏はヤマト王権のもとで沖ノ島での祭祀を執り行い、王権と強いつながりをもっていた。 |
| 三宮における信仰の継承と海上の安全への祈り | ・海と深い関わりをもった宗像氏は、沖ノ島で航海の安全を祈った。 |
| 沖ノ島に対する禁忌・遥拝等の生きた信仰の伝統 | |
| 日本固有の信仰における歴史的意義と信仰の広がり | |

(2) 現況と課題

○整備と公開の範囲

史跡の整備計画を再検討し、段階的に整備を進める予定である。古墳群が位置する台地の上を道路が通過し、また大型農業施設や産廃処理施設が存在しているため、まず国道495号より東側の範囲で散策路の整備等を進める。施設の移転や道路横断の安全の確保の上で、台地全体の整備・活用を行う。また、史跡地外の丘陵等に展望所を整備する予定である。

○価値の解説・発信

各古墳や遺跡全体についての価値の解説・発信が十分になされておらず、調査研究をさらに進めた上で分かりやすく価値を伝えていく必要がある。

○交通アクセス

公共交通機関での来訪も可能であるが、バス停まで距離がある等、来訪者にとって不便な状況である。駐車場については、展望所での仮整備が行われているが、来訪者の増加具合によっては不十分であり、代替案の検討が必要である。

(3) 方針

沖ノ島および宗像三女神への祭祀を担った宗像氏の古墳群として、海や沖ノ島とのつながりが感じられる公開・活用を行う。

【遺産群の保護】

- 来訪者が古墳の保護上問題のある場所に立ち入らないよう、散策路やサインの整備を行う。
- 史跡地内のふさわしくない構造物の除去や樹林の手入れを行う。

【円滑な来訪】

- 旧津屋崎庁舎を再整備する福津市の複合文化施設において、古墳群からの出土遺物等を用いて、古墳群の価値を展示・解説する。
- 古墳の周溝等の外表施設の遺構を顕在化する等、それぞれの古墳の価値や特徴が分かるような整備を行う。
- 休憩所やトイレ・駐車場等の整備を行う。
- 古墳群と旧入海や玄界灘・大島等との位置関係や、大小様々な墳丘のある古墳群の全体像を把握できる展望所を整備し、あわせて眺望景

観の改善を行う。

- 古墳群に近い位置にバス停を確保する。
- 駐車場については、需要を把握した上で対応を検討する。
- 明確な動線を設定し、サイン・パンフレット等により遺跡の全体像や配置が分かるようにする。
- 新原・奴山古墳群以外の津屋崎古墳群等、関連する文化財の紹介・解説を行う。

【価値の探求・発信】

- 各古墳や遺跡全体についての調査研究をさらに進め、宗像氏の古墳としての価値を分かりやすく伝えていく。
- 史跡の追加指定によって生じた測量調査が未実施の範囲について、調査を行う。

【地域との協調】

- コミュニティと連携して維持管理や古墳群を楽しむイベントの企画等を行う。



SCALE 1:20,000



